

令和5年度 学校評価書(共通) 前期

校名

宇和島市立城東中学校

1 自己評価書

教育目標	一生懸命な生徒を育てる ～その姿勢が自分も周りも幸せにする！～
基本方針	校区の人材や資源を生かすとともに、保護者や地域の願いを踏まえながら、校内外の諸活動に一生懸命取り組んでいくことができる生徒を育成する。また、個別最適な学びと協働的な学びを大切にし、確かな学力、豊かな心、健やかな体をバランスよく育み、変化する社会を生き抜いていく力を身に付けさせる。
本年度重点目標	1 活気に満ちた生徒活動の推進 2 生徒指導の充実 3 確かな学力の定着と向上を図る学校教育の推進

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	① 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成	B	B	
			・具体的な対策の実施	B		
	② 授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・生徒アンケート	A	
		一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・教師アンケート	A	A	
			・保護者アンケート	A		
			・生徒アンケート	A		
	③ 家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート	B	C	
			・保護者アンケート	A		
			・生徒アンケート	C		
	④ 読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	C	C	
			・保護者アンケート	A		
			・生徒アンケート	C		
	⑤ ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	B	C	
・保護者アンケート			C			
・生徒アンケート			C			
(成果と課題)						
○ 学習課題を生徒と共有するとともに、まとめや振り返りを丁寧に行うことができている。授業改善を進めていく中で、ICTの効果的な活用方法について、研修を進めていく必要がある。						
○ 多くの生徒が、校区の公民館や小学校等でのボランティア活動や校内の朝ボランティア活動に積極的に参加し、地域に貢献していこうとする態度が身に付いている。						
○ 宿題の未提出者は少ないものの、主体的な家庭学習習慣の定着には課題が見られる。						
○ 朝読書の実施、生徒の読書に対する関心が高まる書籍の購入等の取組を継続し、読書活動の充実を図っていく必要がある。						
(改善策等)						
○ 校内の教育環境部会の取組で、各学年の生徒の実態に応じた自主学習ノートの活用に努め、主体的な学習習慣の定着につなげていきたい。						
○ 総合的な学習の時間における地域学習が2学期に予定されている学年もあり、引き続き校内外のボランティア活動に積極的に取り組むことで、地域に対する誇りや愛着の醸成に努めていきたい。						

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	A	A	
			・保護者アンケート	A		
			・生徒アンケート	A		
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・生徒アンケート	A	
		いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	A	A	
			・保護者アンケート	A		
			・生徒アンケート	A		
	③ 基本的な生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。	・教師アンケート	A	A	
			・保護者アンケート	A		
			・生徒アンケート	B		
	④ 自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート	A	B	
			・生徒アンケート	C		
		自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	A	B	
・生徒アンケート			C			
(成果と課題)						
○ 生徒は落ち着いた学校生活を送ることができている。不安や悩みを抱える生徒に対しては、学級担任を中心とした学年部の対応、必要に応じてサポートルームやスクールカウンセラーの活用などにより、生徒に寄り添った生徒指導に努めることができている。						
○ 自己肯定感等の項目では、生徒と学校との評価に差があるため、指導の手立ての改善が必要である。						
(改善策等)						
○ 引き続き、全ての生徒に対する学びの保障を実現するため、教職員が共通理解・連携の下、サポートルームを適切に運営していきたい。						
○ 2学期に予定されている体育祭や文化祭等の学校行事、ボランティア活動などへの取組を通して、自己肯定感の涵養を図っていきたい。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、教職員の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B A	B
	②	働きやすい環境づくり	新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、教育活動の回復や精選に慣例にとらわれることなく取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A
	③	他の教職員のサポート体制の充実	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
<p>(成果と課題)</p> <p>○ コロナ禍を踏まえ、学校行事や事務処理の簡素化など、働きやすい環境づくりが推進されており、教職員の心のゆとりが教職員間のサポート体制の充実にもつながっている。</p> <p>○ 校内外での役割により、やりがいは感じられているものの超過勤務時間が多くなる教員も見られた。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○ 引き続き、笑顔の絶えない教室や職員室となるよう、温かい雰囲気でも互いを支えていこうな職員室の雰囲気の醸成に努めていきたい。</p>						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	
				・保護者アンケート	A	
	・地域アンケート	B				
②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A	
			・保護者アンケート	A		
③	来校・相談体制	保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
			・保護者アンケート	A		
<p>(成果と課題)</p> <p>○ 学級通信や学校ホームページの発行・更新を定期的に行い、家庭や地域に学校の様子を積極的に情報発信できている。</p> <p>○ 校区の公民館や保育園等から行事への協力依頼をいただくなど、地域の関係機関との協力体制を構築することができている。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○ 保護者や地域の方々の声を大切に、継続した情報発信を行うとともに、地域の力を学校運営に生かしていけるよう努めていきたい。</p>						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満